

# 保健だより 12月

12月に入り、2018年も残すところあと少しとなりました。今年はどうな1年だったでしょうか。風邪などひかず、今年1年を気持ちよく締めくくれるように、体調管理には十分注意しましょう。

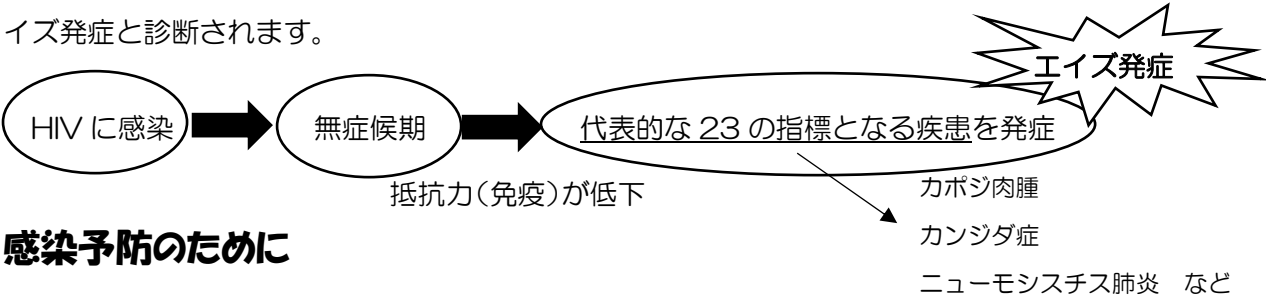


## 12月1日は「世界エイズデー」です

世界エイズデーは、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

### HIV/AIDS(エイズ)とは

エイズは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによっておこる病気ですが、HIV感染＝エイズということではありません。HIVに感染した後、症状が出ない無症候期を経て、抵抗力が落ちることで発症する疾患のうち、代表的な23の指標となる疾患を発症した時点でエイズ発症と診断されます。



### 感染予防のために

HIVの感染経路は3つです。

#### 性行為による感染

もっとも多い感染経路です。HIVは主に血液や精液、膣分泌液に多く含まれているため、コンドームの正しい使用によって、感染を予防できます。

#### 血液を介した感染

HIVが存在する血液の輸血や、覚せい剤などの“回しうち”による注射器具の共用などによって感染します。

#### 母子感染

母親がHIVに感染している場合、妊娠・出産時に赤ちゃんに感染することがあります。薬の服用などで赤ちゃんへの感染をほぼおさえることができます。

HIVは、3つの感染経路でしかうつりません。普段の生活ではうつらないことがわかっており、むやみに怖がることはありません。この病気を予防し、あるいは共に生きるために、まずきちんとした知識や理解をもつことが大切です。

# 性感染症について知っておいてほしいこと

性感染症（STD）とは、主に性行為でうつる病気のことです。以下の表に記したものが等があります。性感染症を防ぐために必要なことには、①セックスをしない、②セックスをするときは必ずコンドームをつける、③特定のパートナーとだけする、等があります。性感染症は性器同士の接触だけでなく、それ以外の体の粘膜や、皮膚の傷口などからうつることもあるため、口でする性行為のときにもコンドームの使用が必要です。まずは、うつらないために予防が大切ですが、もしも疑いがあるときには、早期にパートナーと一緒に検査を受けることが大切です。



## 主な性感染症の種類

病名	どんな症状がある？	潜伏期間は？
性器クラミジア感染症	男性：おしっこのときに痛い。おしっこに血や膿がまじる。 女性：自覚症状はとくにないが、重症化するとお腹が痛くなる。	1～3週間
淋菌感染症	男性：おしっこに痛み、おしっこに血や膿がまじる。 女性：鼻汁のようなおりもの。重症化するとお腹が痛くなる。	2～7日
梅毒	性器や足の付け根等にしこり。進行すると皮膚や粘膜に発疹等。	3～6週間（第一期）
HIV	自覚症状はない（2～4週間でかぜに似た症状が出ることもある）。AIDSを発症すると免疫力が下がる。	未治療の場合約10年だが、個人差も大きい。
性器ヘルペスウイルス感染症	外性器や周囲に水ぶくれや痛み。重症化すると発熱。	2～10日
尖圭コンジローマ	性器やその周辺に鶏のトサカのようなイボができる。	3週間～8か月

性感染症は

何科を受診すればいいの？

性感染症かもしれないと思ったときは、女の子は産婦人科、男の子は泌尿器科を受診してください。梅毒など性器以外の皮膚に症状が出ている場合には、皮膚科でも大丈夫です。



受診するときのルール



性感染症は症状が出ない場合や、外見で判断できない場合も多く、感染していることに気づかないこともあります。もし自分や相手のどちらかでも感染の疑いがある場合には、二人とも一緒に検査を受けることが大事です。一方だけが治療して治っても、パートナーから再度、うつされてしまうことになります。